

中野区教育委員会会議録

令和5年第6回臨時会

令和5年7月24日

中野区教育委員会

令和5年第6回中野区教育委員会臨時会

○日時

令和5年7月24日（月曜日）

開会 午後 7時56分

閉会 午後 9時15分

○場所

中野区役所5階 教育委員会室

○出席委員

教育委員会教育長 入野 貴美子

教育委員会委員 村杉 寛子

教育委員会委員 平本 紋子

教育委員会委員 伊藤 亜矢子

教育委員会委員 岡本 淳之

○出席職員

子ども・教育政策課長、学校再編・地域連携担当課長

渡邊 健治

指導室長

齊藤 光司

○書記

教育委員会係長 香月 俊介

教育委員会係 伊藤 芽依

○会議録署名委員

教育委員会教育長 入野 貴美子

教育委員会委員 平本 紋子

○傍聴者数

0人

○議事日程

1 協議事項

(1) 令和6年度使用教科用図書の採択について

○議事経過

午後 7 時 56 分開会

入野教育長

定足数に達しましたので、教育委員会第 6 回臨時会を開会いたします。

本日の会議録署名委員は平本委員にお願いいたします。

本日の議事はお手元に配付の議事日程のとおりでございます。

ここでお諮りをいたします。本日の協議事項「令和 6 年度使用教科用図書の採択について」は、採択過程における審議の公正を確保するため、中野区立学校教科用図書の採択に関する規則第 10 条第 1 項の規定により、非公開の取扱となっておりますので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 14 条第 7 項のただし書の規定に基づき、会議を非公開としたいと思います。ご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

入野教育長

ご異議ございませんので、非公開とすることに決定しました。

(以下、非公開)

(令和 5 年第 26 回定例会における会議録の公開決定に基づき、以下非公開部分を公開)

<協議事項>

入野教育長

それでは、日程に入ります。

協議に入る前に、前回の臨時会から本日までに教育委員会及び教育委員宛に要望書などが届いておりましたら、ご報告願います。

指導室長

本日までに要望書は届いてはございません。

入野教育長

それでは、前回に引き続き「令和 6 年度使用教科用図書の採択について」の協議を行います。協議の進行につきましては、前回と同様の方法によりたいと思いますので、よろしくお願いたします。

また、本日は前回協議を行った国語、書写、音楽につきまして、欠席された村杉委員のご意見を伺い、改めて協議を行った上で、採択候補とする教科書を決定したいと思います。その後、引き続き、社会から順次協議を行っていくことといたします。

それでは、国語について協議を行います。村杉委員からご意見をお願いいたします。

村杉委員

子どもたちが成長して、人と人との関わっていく中で、自分の伝えたいことを伝えられるような力が、また、思考力や想像力が養われるような点について見させていただきました。

教育出版については図や写真で読み取れる資料も充実しており、イラストもきれいでしたが、光村図書は全体にバランスがよく、「書くこと」の単元数も多く、また、挿し絵や写真などが大変美しく、子どもたちの想像力を伸ばすものではないかと思いました。また、先生方のこれまでの研究実践を生かしやすいという点においても優れているのではないかと思います。学年を通じての学習の継続性もよく考えられていると思いました。

また、障害者理解についても多く取り上げられ、「手話」「視覚障害」「点字」など多様性を理解していく点においても、バランスよく掲載されていると思いました。

このような点から、私は光村図書の方向性でよいのではないかと考えました。

入野教育長

ほかに、各委員から改めてご発言ありますでしょうか。よろしいでしょうか。

よろしければ、全体的に光村図書というご意見が、前回の協議でのご意見と村杉委員のご意見とを併せますと強いようですが、国語については光村図書でよろしいでしょうか。

それでは、ここでお諮りをいたします。

ただいま、協議の結果、国語については光村図書を採択候補とすることで、ご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

入野教育長

ご異議ございませんので、国語については光村図書を採択候補とすることに決定いたしました。

次に、書写について協議を行います。

村杉委員からご意見をお願いいたします。

村杉委員

1年生が初めて文字に触れて学んでいくという点から、文字について親しみ、楽しく理解が深められるような点について見させていただきました。また、鉛筆の持ち方や文字を書くときの姿勢についても見させていただきました。

東京書籍は、書写体操と鉛筆の持ち方の写真が実物大で示されており、大変わかりやすいと思いました。左利きの写真もあり、大変わかりやすいのではないかと思います。

光村図書は、タブレット端末を使う際の姿勢についても記載されており、これから長年タブレット端末で勉強していく上では、目の健康のことも考え、重要なことではないかと思えます。文字の書き方のイラストもわかりやすいと思いました。デジタル教材の使いやすさに関しても、1年生では右利き、左利き、今は左利きが約1割ということですので、デジタル教科書、動画があり、わかりやすいと思いました。

このような点から光村図書の方向性でよいのではないかと考えました。

以上です。

入野教育長

前回の他の委員の意見と併せますと、書写については、光村図書と東京書籍の複数の候補が出ているように思うのですが、ほかに各委員から発言はございますでしょうか。

それでは、休憩いたします。

午後8時02分休憩

午後8時16分再開

入野教育長

それでは、再開いたします。

各委員からご発言はございますでしょうか。

伊藤委員

前回から非常に迷っておりまして、光村図書のものと東京書籍のものが、本当に甲乙がつけがたいのですが、再度精査してみますと、低学年、特に1年生の、初めて書くお子さんにとって、すっきりとした紙面で、「びたっ」とか「とん」とか統一性のある擬音が使われているという点で、前回も申しましたけれども、少し読み書きが苦手な傾向を持つお子さんにとってもわかりやすい、なじみやすい、混乱が少ないというようなこと、また、毛筆になったときにも穂先がどこにあるかということ、もちろん光村図書もわかりやすいのですが、そういったところも低学年からの共通した言葉で、「とん」「びたっ」ということでずっと説明がなされておりまして、子どもたちが混乱なく、いつも同じことが大事だなという形で、同じ言葉で大事なことを確認しながら、書くということになじんでいけるのではないかと思いますと、総合的に判断して、東京書籍が適切であるのではないかと思います。

特にタブレット端末の使用などで、文字を書く、あるいは毛筆を使うというようなことが減ってきているわけですが、その中でも文字をきちっと書くということが、脳の発達や学習、あるいは思考などについてもとても重要ですので、今回、慎重に考えまして、東京書籍のほうが適切かなと思い至りました。

以上です。

入野教育長

私も前回東京書籍と光村図書とどちらも候補としていいのではないかというお話をしてまいりましたが、硬筆にしても毛筆にしても、運び、運筆というのでしょうか、その筆跡が見やすいという、そういう面では東京書籍のほうがかなと思います。そういう部分は、子どもたちには、動画にしてもなかなか見取れないという部分がありますので、教科書で見ていくということも最近大事かなと思っております。

もう一つは、書写はあまり時間数はありませんので、そういう面では適当な分量なのかなと思うのも東京書籍でございますので、光村図書というよりは東京書籍の方がよいのではないかと思います。

ほかにご意見ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、東京書籍と光村図書、複数の候補が出ておりましたが、本日の協議の結果は、東京書籍が多くなったような気がいたします。書写については東京書籍でよろしいでしょうか。

それでは、ここでお諮りをいたします。

ただいまの協議の結果、書写については東京書籍を採択候補することでご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

入野教育長

ご異議ございませんので、書写については東京書籍を採択候補とすることに決定いたしました。

次に、音楽について協議を行います。

村杉委員からご意見をお願いいたします。

村杉委員

音楽を学ぶことにより、子どもたちが音楽の楽しさを体験し、音楽に対する感性が育まれ、豊かな情操を培うという点について見させていただきました。

教育出版は、デジタル教材について工夫された動画や、音源についても実際の楽器を用いている点などがいいかと思いました。

ただ、教育芸術社は見開きで見やすくまとめられていること、巻頭の「学習マップ」と巻末の「振り返り」が関連していて、子どもたちが学習しやすいのではないかと感じました。また、教科書の色合いや配色が工夫されて美しいと思いました。加えて、発達の段階に合わせたユニバーサルデザインに対する配慮もされていて、大変よいのではないかと感じました。

このような点から教育芸術社がよいと思います。

入野教育長

他の委員から発言はございますか。よろしいでしょうか。

そうしますと、全体的に教育芸術社というご意見が、前回と併せて強いようでございます。音楽については教育芸術社でよろしいでしょうか。

それでは、ここでお諮りをいたします。

ただいまの協議の結果、音楽については、教育芸術社を採択候補とすることでご異議ございませんでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

入野教育長

ご異議ございませんので、音楽については教育芸術社を採択候補とすることに決定しました。

次に、これから協議を行う社会及び地図についてでございますが、社会及び地図の教科書について著作、編集に直接関わったわけではございませんが、かつて教育長就任前に私が協力したものがございます。教科書採択の公平性を自分なりに考えたときに、採択協議に関わることは今回も適切ではないという判断をいたしました。

つきましては、社会及び地図については協議する場から退席したいと思いますよろしいでしょうか。

それでは、私はここで退室をいたします。退室後の教育委員会の会議の進行は教育長職務代理者の村杉委員が引き続き会議を主催いたします。

それでは、杉村委員に会議の進行を引き継ぎいたします。よろしく願いいたします。

（教育長 退室）

村杉教育長職務代理者

ただいま教育長が退室されましたので、職務代理者として会議の進行を行います。

それでは、社会について協議を行います。

各委員から順にご意見を伺いたいと思います。

まず伊藤委員、お願いいたします。

伊藤委員

社会につきましては、どの教科書も、昔というか以前の教科書とは違って、とても参考となるような写真というのでしょうか、資料というのでしょうか、昔であれば資料集に載っていたような資料がきれいな色刷りで教科書に入っていて、子どもの興味を喚起する工夫がそれぞれなされているなと思いました。

その中で、今回も主体的な学びということ考えたときに、社会科ではやはり自分たちの暮らし、また、時代ということ批判的にというか、自分なりの観点を持って生活者として考えていくというような、そういった主体的な考え方を子どもたちに学んでもらうというのが社会科学の大きな狙いの一つではないかと捉えております。

そうした観点から申しますと、例えば、6年生ですけれども、江戸時代の取り上げ方につきましても、教育出版の場合には、「幕府はどのようにして人々を治めたのだろう」という問いかけになっているのですけれども、日本文教出版は、「江戸のまちの人々はどのような暮らしをしていたのだろう」となっています。そして、さらに東京書籍は、「江戸時代、人々は身分に応じてどのように暮らしていたのか」と、かなり突っ込んだというか、身分に応じてどう暮らしていたのだろうという、自分事として社会を捉え直すような視点が、東京書籍の場合には、問いかけに含まれているように感じました。

また、その際に考える資料となる絵につきましても、教育出版は想像図ということで、庄屋さんの前で年貢を納めているような想像図や、町人の暮らしの想像図が描いてあり、日本文教出版の場合には、江戸図屏風というちょっと小さくて子どもたちが何をしているのかがややわかりにくいものがありまして、それに対して、東京書籍のほうには想像図ではなく、当時の絵や資料から、武士の様子、お百姓さんの様子、町人の様子、職人さんの様子という、それぞれが働いている場面について資料が載っていて、子どもたちの視点や想像力を一歩深められるような資料となっているように思いました。

また、紙面といたしましても、活字やスペースの使い方が東京書籍の場合には非常にわかりやすく、すっきりと見やすくなっておりまして、そういった点からも東京書籍がよいのではないかなと思いました。

以上です。

岡本委員

3社とも大変充実した教科書でありがたいと思いました。私は、昨今の国際情勢を鑑みましても、例えば、戦争などについてどう取り扱っているのかということにも注目をいたしました。

東京書籍の教科書なのですが、情報量は大変充実しているのですが、レイアウトはすっきりまとまっていて非常に読みやすいと感じました。5、6年生でもコラムのような形で発展的な内容を取り扱っていて、興味を持った子どもが、そこでより詳しく学んでいけるような資料集のような感じで工夫されていると感じました。

戦争の記述についてなのですが、例えば、6年生の日清戦争、日露戦争のところでは、「日本の人々の間では、朝鮮や中国の人々を下に見る態度が広がっていきましました」という記述がありまして、もしかしたら今の若い人にとっては韓国好きな方が増えているので、よくわからない記述になるかもしれません。ただ、年配の人にはもしかしたらまだ残っている意識かもしれないので、こういったことを切実に取り扱っていることはとても大切だと感じました。

教育出版の教科書なのですが、レイアウトで各單元ごとにタブとして「つかむ」「調べる」「まとめる」というのがあって、今のこの單元の中で、つかむ段階、調べる段階といったことは、子どもにとってもわかりやすくなっているのがよいと感じました。

特徴としては、戦前戦中の写真をカラーで示してあります。賛否分かれるところかもしれないのですが、私は非常に肯定的に受け止めました。色がわかることで、当時の人々の生活がとても豊かな情感を伴って伝わってくると思います。戦争当時といってもほんの数十年前のことです。当時、自分たちと変わらない人々が生活していたのだという実感を持つことは、歴史を見るに当たってとても大切だと思いました。

日本文教出版は、單元ごとにSDGsについて取り上げるページがあって、今の時代にとってもポジティブだと思いました。6年生の「基本的人権と国民の権利義務」のところで、「国民の義務に対する国の義務」というコラムがありました。よく、権利があれば義務もあると等価交換のように言われがちなのですが、国民が義務を果たせるようにするためには、国がまず義務を果たさなければならないということが書いてあることを、私は非常に肯定的に受け止めました。

また、6年生の歴史で、戦争の悲惨さが伝わってくるのですけれども、例えば、日中戦争

のところで、「中国との戦争は長く続いたんだね。その間中国の人々はどうしていたのだろうか」と、日本の話だけではなくて、他国の人々のことにまで思いが至るような記述があるというところも非常に肯定的に受け止めました。

全体を通してなのですが、各社ともに非常に充実していると思ったのですが、1点、東京書籍の教科書は「領土問題がない」としていることが気になりました。もちろん日本政府の公式見解なのですが、教科書の記述はこの前提のみだった場合に、中野区で大切にしている多様性の尊重であったり、国際理解教育というのを進めていくに当たって、現場の先生方に工夫をしていただく必要があるのかなと思いました。例えば、教育出版はこの部分では「領土問題はないというのが日本の立場ですが、中国も自国の領土であると主張しています」とあります。

以上のことや、「つかむ」「調べる」「まとめる」という流れが実感できやすいこと、また、戦争のカラー写真などについてもよいと思いましたので、私は教育出版の教科書がよいと思いました。

以上です。

平本委員

社会については、主体的な課題を見つけて解決していく問題解決型の学習の進め方ができるかという観点でいろいろ見させていただきました。

3社ともに学習の進め方はそれぞれわかりやすく示されていると感じましたが、東京書籍については「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」という流れで、「つかむ」のところで課題を発見させて、学び方のコーナーで学び方、調べ方をアシストしてまとめさせるという流れが、子どもたちにとっても一番わかりやすいかなと感じました。また、QRコードからは動画を見た上で学習計画のワークシートのほかにまとめるワークシートもありましたので使いやすい構成かなと思います。また、同じ位置に、学習のポイントとなる活動を学びのポイントとして示していて、さらに「広げる」というトピックも設定されていたので、例えば、歴史を学んで、身近な社会に捉え直すという流れで、主体的で深い学びにもつなげやすい構成になっていると感じました。

特によかったのは、憲法のところが丁寧に書かれていまして、三原則が暮らしに生かされていると考えられる取組について、具体的に友達と話し合った上で、書いてみようというまとめにつなげている点も、身近な社会に憲法を捉え直して主体的に学ばせるという形がとてもわかりやすかったと思います。

ほかの2社ですけれども、教育出版についても、「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」という流れは、子どもたちの対話形式も盛り込んだ構成で主体的、対話的な学びが進めやすい点はよかったと思います。また、6年生の教科書の基本的人権の尊重のところでは、ハンセン病などの人権侵害の歴史があったという事実も丁寧に説明されていまして、差別や偏見に関する記述にもつなげている点は評価できました。ただ、QRコードのほうを見てみますと、それほど多くはないのと、ほとんどがワークシートのみでしたので、活用の仕方がやや限られるかなとは思いました。

日本文教出版ですけれども、こちらは少し難しい言葉が使われていまして、「問題発見」「問題追求」「問題解決」「役立てる」という流れで、学習の進め方を見ますと、「問題を追求」というフレーズが何度も出てきておりましたので、問題を掘り下げていく力を育む点に重点を置いている教科書なのかなとは感じました。そのためなのか、6年生の最初のところで学習の進め方を示す見開きのページのところに「まとめる」というフレーズがほぼ出てこなかった点は気になりました。中身を見ていきますと、もちろんまとめる学習も出てくるのですが、問題追求に重きを置いているのかなというところで、ちょっとバランスが気になったということもありまして、私としましては、学習の進め方がわかりやすく示されていて、子どもたちが身近な社会に捉え直して深く学びやすいという観点で、東京書籍がよいのではないかなと思っております。

村杉教育長職務代理者

それでは、最後に私の意見を申し上げます。子どもたちが中野という地域社会に対する誇りと愛情を持ちながら、日本、グローバル化する国際社会で生きていく上での資質、能力を育むという点から見させていただきました。

日本文教出版は、単元の最後にSDGsが記載されている点は非常によいのではないかと思います。また、「問題を掘り下げ、よりよい未来をつくる力を身につけよう」などのマークもよく考えられていると思います。

教育出版は、社会に生きる様々な人の声が多く掲載されており、発展性があると思えました。また、各単元に調べ方やまとめ方などの学び方が例示されており、学びやすいと思えました。写真のサイズ、量のバランスなども見やすいと思えました。

東京書籍は、カラーバリアフリーの視点から図表やグラフについて色調だけでなく、模様や形、線種なども判別できるような点は優れていると思います。また、「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」の学習過程が1単位時間ごとに明記されていることも学習の段

階がわかりやすいのではないかと思います。軽量の紙を使用しているという点においても、重さを配慮し、よい点ではないかと思います。また、動画の資料が大変わかりやすいと思いました。

このような点から、私は東京書籍の方向性でよいのではないかと考えております。

ほかに各委員から発言はございませんか。

それでは、ここで会議を休憩いたします。

午後 8 時 36 分休憩

午後 8 時 40 分再開

村杉教育長職務代理者

それでは、会議を再開します。

全体的に東京書籍というご意見が強いようですが、社会については東京書籍でよろしいでしょうか。

それでは、ここでお諮りをいたします。ただいまの協議の結果、社会については東京書籍を採択候補とすることでご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

村杉教育長職務代理者

ご異議ございませんので、社会については東京書籍を採択候補とすることに決定いたしました。

それでは、次に地図について協議を行います。

各委員から順にご意見を伺いたいと思います。

まず岡本委員、お願いします。

岡本委員

2社の教科書を拝見いたしました。それぞれ地図帳として十分なクオリティーがあったと思います。東京書籍のほうは情報量も多くて、より深く学びたい児童にとって資料としても楽しめる内容だと感じました。また、「ホップステップマップでジャンプ」というミニクイズのコーナーもありまして、このあたりも、子どもはどんどん自分で学べるような工夫がされていると感じました。帝国書院のほうは、そもそもの地図の使い方についての記述が丁寧だなと感じました。例えば、距離の求め方というところが、すごく丁寧に解説されてあったり、地図の仕組みと約束事、このあたりの記述も丁寧だなと感じました。例えば、平面だけでなく、斜めからの地図もあったりと、地図自体に親しみを持って見られるよ

うな試みもされていると感じました。

全体を通して、地図としては読みやすいことが第一義だと考えますので、私は帝国書院がよいと感じました。

以上です。

平本委員

私は、地図については見た目のデザインのわかりやすさとしての文字表記、配色のほか、子どもたちが地図へ興味、関心を持って主体的に学ぶ工夫がなされているかという観点で見させていただきました。

東京書籍については、情報量が多くて細かく丁寧に記載されていると思いました。その反面、文字表記や配色のところで、視覚的には少し見にくくなっているようにも感じられました。ただし、日本の自然災害に関する内容は写真も含めて充実しておりましたので、子どもたちの興味関心も引かれるのではないかと感じます。

帝国書院については、文字や配色が視覚的に非常にわかりやすかったと思います。また、詳細な地図以外にも、広く見渡す地図を掲載している点が、中学年が地図を学ぶ上で、全体を捉えやすくするような工夫がなされていてよろしいのではないかなと思いました。さらに、ドローンの動画を見ることもできまして、立体から平面へという地図の構造を理解させるような工夫がある点は非常に面白い内容でありますし、子どもたちの興味、関心を喚起する観点でもよいと思いましたので、私は総合的に見て帝国書院がよいと考えております。

伊藤委員

両方ともとても魅力的な地図帳だと思いました。

東京書籍のほうはとても情報量が多くて、写真があったり、細かいところまでいろいろなことが記載されていて、また、厚さとしてもシンプルにまとまっていてよろしいかなと思いました。

ただ、やはり見やすさということを考えますと、帝国書院のほうは土地の高低差が低い土地は緑色、山などは茶色の濃い色になっていくという、直感的に地球というのがとてもわかりやすく、先ほど話題にもなりましたが、ドローンの工夫も含めて、子どもにとってわかりにくい立体が平面に落ちていくという心的回転というのでしょうか、頭の中で視点を変えていくという難しさのところを直感的に補えるような工夫があって、情報も精選されているので、子どもたちにとってわかりやすさというのがとてもあるのではないかなと思

いました。

また、よりシンプルな地図と詳細な地図と分かれていますので、全体の厚みは若干厚いのですけれども、地図に見慣れていない子はシンプルなものを絵地図のように眺め、それがどんなふうに詳しくなっていくのかということが、詳しい地図と見比べることで容易にわかるのではないかなと思いました。

そういった点も含めまして、帝国書院が子どもたちにとって適しているのではないかと考えました。

以上です。

村杉教育長職務代理者

最後に私の意見を申し上げます。子どもたちが成長していく過程で、地図の見方は大変重要だと思います。また、地図を通して社会の仕組みや、歴史、伝統文化を通じ、学びを広げていくという視点で見させていただきました。

両社ともユニバーサルデザインフォントを採用しており、色覚特性に適応するように工夫されていますが、東京書籍は地図にイラストが多くわかりやすいと思いました。また、「マップでジャンプ!」という地図帳の活用方法を示しているという点でも優れていると思いました。帝国書院は読みやすい字で配色も大変美しいと思いました。「SDGs」「防災」「減災」への理解を深めるページも充実しており、また、ドローンの動画によって上空からの様子を捉えることができ、3次元的な見方もできるという点においては優れているのではないかと思います。他の教科書との関連性も多いという点では、学びを深めていく上では大切なことだと思います。

このような点から帝国書院がよいのではないかと考えました。

ほかに各委員から発言はございませんか。

それでは、各委員とも帝国書院というご意見ですが、地図については帝国書院でよろしいでしょうか。

それでは、ここでお諮りをいたします。

ただいまの協議の結果、地図については帝国書院を採択候補とすることでご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

村杉教育長職務代理者

ご異議ございませんので、地図については帝国書院を採択候補とすることに決定いたし

ました。

それでは、社会及び地図の協議が終了しましたので、教育長は入室してください。

(教育長 入室)

村杉教育長職務代理者

教育長が着席しましたので、会議の進行を教育長へ引き継ぎいたします。

入野教育長

それでは、引き続き私が会議の進行を行います。

次に、図画工作について協議を行います。

各委員から順にご意見を伺いたいと思います。

まず、平本委員からお願いいたします。

平本委員

図画工作については、表現活動や鑑賞活動を楽しむ力が育めるか、また、仲間と共同して取り組む活動や用具の使い方なども丁寧に説明されているかという観点から見させていただきました。

日本文教出版については、写真や作品がとてもすてきに掲載されておりました。ただ、低学年の教科書であっても、基本的に文字がとても小さい形で統一されていたので、子どもたちにとって読みにくいかもしれないという点が気になっております。

また、写真がとても美しかったのですけれども、どうしてもコロナ禍でマスクの写真が多くなってしまったということが、これから数年間使う教科書としてどうなのかなという点も若干気になってしまった点です。

また、みんなの図工ギャラリーというところで、多数の子どもたちの作品がありまして、それは作品づくりのヒントにもなりますし、よいのではないかと思いましたが、別の見方をしますと、主体的な学びを進める上で、見本動画があまりに多すぎると活動の自由度がかえって狭められてしまうかもしれないという意見もあるのではないかなとは思っております。

もう1社、開隆堂出版のほうですが、全体的にとってもカラフルで笑顔の子どもたちの楽しい写真が多かったこともあり、読んでいてわくわくしました。また、文字が大きくて読みやすくなっており、左上のほうで使用する用具の絵を示しては、右下のほうでは、「あわせて学ぼう」ということで統一的にかつ他教科との関連づけがわかりやすくなっていくかなと思います。

また、電動の糸のこぎりやペンチなど安全面で注意が必要となる道具を取り扱う場面では、「安全マーク」を示して強調するような記述が囲みで書かれておりましたので、その点でもわかりやすく安心できるのではないかなと思いました。

したがって、私は開隆堂出版がよいのではないかと考えております。

伊藤委員

2社ございまして、2社ともとても写真もすてきなものでした。ただやはりお話にも出ているように、日本文教出版のものは低学年でも文字が小さいということと、特に、低学年にとって目標となるところがとても小さく、写してできる形や色を見つけるとか、形の写し方を工夫するとか、どちらかという先生指導目標のようなものが、目標として書かれていて小学校1、2年生の発達の段階を考えたときに、主体的な学びという観点からどうなのだろうということを考えてみました。

それに対して、開隆堂出版のほうは「好きなもの、わくわくするものいろいろあるね」ということで、自分の感性で何か好きなものを見つけたり、そこから自己表現を楽しんだりということに力点が置かれている紙面構成になっておりまして、小さい低学年のお子さんでも造形を楽しんだり、自分の中にある感性を自分で探索するという、教育にとって、とても大事な部分をうまく引き出していただけるような、そういった工夫があるかなと思いましたし、また、面白いなと思いましたのは、各セクションで、そのセクションで使う材料とか、あと、用具というのが、必ずアイコンによってわかりやすく最初のところに示されておりまして、また、それが紙面を邪魔することなく、とてもすてきに記されているのですけれども、そして、最後のところの振り返りも、片づけのところポイントが「きれいに拭こう」とか、押しつけがましくない感じで自然な感じで書かれていて、振り返りもどんなことができたかなと自然に振り返るようにできていますので、ただわくわくする紙面というだけではなくて、何が必要で、そこでどんな活動をして、振り返りとしてこんなことがあったと、一連の学習をまとめよく行えるのではないかなとも思いました。

そういった観点から開隆堂出版がよいのではないかと考えました。

以上です。

村杉委員

子どもたちが美しいものに触れ、美しいと感じ、何かを作り出すことによって、作る楽しみを味わい、美しく豊かな生活につながればという視点で見させていただきました。

日本文教出版は、全学年でタブレット端末を活用した学習が、発達の段階に合わせて例

示されているという点に関しては優れていると思います。また、コマ撮りアニメーションアプリも子どもたちの興味を引き、創造力を養うものだと思います。ただ、私も文字が小さい点は少し気になりました。

開隆堂出版は、子どもたちが生き生きとした美しい写真を多く使用し、量的なバランスもいいと思いました。また、「ふりかえり」で学習の振り返りを促す三つの問いなどが、子どもたちの主体的な学習につながっていくのではないかと思います。デジタルコンテンツも詳しく記載され、使いやすそうな印象を受けました。画像データが多いことも創造力につながる点ではないかと思います。

このような点から開隆堂出版がよいのではないかと思います。

以上です。

岡本委員

担任の先生が1、2年生の授業をされることが多いということで、子どもたちが主体的に意欲を持って図画工作の授業に取り組める教科書という観点から検討いたしました。

開隆堂出版の教科書、1年生の「ねんどとくるくる」の单元では、「ぐりぐり」「くるくる」「ぎゅう」などの擬音が漫画的に使われていて、子どもは実際に自分の手でやってみたくなるような工夫がなされているなど感じました。また、2社とも子どもたちの作品がちりばめられていて楽しいのですけれども、開隆堂出版のほうは、その中でもプロの作品がバンとあらわれています。「おっ」と引きつけられました。同じ粘土を使った作品でも、小学生とプロの違いがあるということが小学生の段階でわかることは、より意欲を持てる子どももいるのではないかと感じました。

日本文教出版の教科書は、「1年生の最初にどんなことが好きだった」とスタートカリキュラムを意識したページがあるのはとてもよいと感じました。また、児童の発達の段階に応じて、主体的に行動していくことを促すような題材もそろっていると感じました。対話的な学びを意識して、「友達と作品を見て話そう」というページがあるのも、先生にとっては使いやすいのではないかと感じました。

以上で、どちらもよいと感じたのですけれども、これまでの継続性という意味でも、また各委員がおっしゃったように、文字が大きく、子ども目線の導入があるという意味でも、開隆堂出版のほうが良いのではと考えます。

以上です。

入野教育長

最後に私からの意見を申し上げます。

主体的な学びの力という意味から言っても、開隆堂出版のほうが低学年の入り方が、体験というか、行動から入っているというか、そこからの作品づくり、ものに触れるところからの作品づくりということでは、今、岡本委員がおっしゃったように、一番初めの粘土の扱い方が対照的で、「むぎゅ」「たん」というのが題材名なのですね。まず粘土を触ってみて「むぎゅ」とやってみたり、「たん」とやってみたりというところから何ができるかなということ。そういうことをやりながら、形を生み出すというところから入っていく。生み出した形でお話を考えるという展開が開隆堂出版で、日本文教出版のほうは、「思い出を形にしよう」というテーマから入って、それをつくっていく間に、そういう技術を、粘土の扱い方を学んでいくという展開になっています。どちらかというとな低学年は、創造性を子どもたちに持たせるということからすると、活動から入っているというところでもいいのかなと思いましたし、低学年の担任が扱うときに1時間から2時間これで指導していく。さらにもっと長い扱いかもしれませんが、そういう活動から入っていくというやり方が例示されていることのほうが使いやすいのかなという感じがしました。

同様に、高学年の部分では専科の先生が多いのですがけれども、例えば「墨の世界」、同じ墨と水という世界の扱いが開隆堂出版はまず筆だけでないもので、墨で書いてみたり、体験を通してから、その次にはこんなことができる、国宝の水墨画を見て、どういう筆の使い方をしているのかということを考えたり、自分でやってみたりというところから入っていく感じなのですがけれども、日本文教出版は非常に子どもたちの作品がダイナミックなのですがけれども、作品はどう書かれているのかというところから入っていくという形で、高学年においても表現をいろいろ楽しんでからということのほうがいいし、楽しみ方というか、道具の使い方というような基礎、基本を経験してから、何か作品にしていくというこのやり方が、非常に子どもたちの主体的な学びにあうと思いますし、子どもたち自身の成長にも合っているような気がいたしました。

学び合いという意味では、両社とも共同作品が非常にたくさん出てくるのですがけれども、どちらかというとな作品とか活動自体が開隆堂出版のほうがダイナミックなのかなという印象を持ちました。対話的な鑑賞の仕方についても、開隆堂出版のほうが鑑賞学習の資料ページが多いことがいいかなと思いました。「小さな美術館」という芸術家の方がつくった作品に触れるというのもいいかなと思いました。対照的に、日本文教出版はアートカードアプリで作品鑑賞ができて、子どもたちの作品を立体的にいろいろな面から見られ

るという工夫がすごくされていて、今後これは面白いなと私も思いましたけれども、果たしてそこまで使っていく余裕があるかなというのも今のところ思いました。

さらに、一人1台タブレット端末の活用という意味でも、開隆堂出版はお話がありましたように、学びの資料の中に必ずタブレット端末を使おうというページがあって、それがいいかなと思いました。日本文教出版は、題材ごとのQRコードが非常に充実しているというところもあって、甲乙つけがたいところがあるのですけれども、学習の展開の仕方がどちらも問題解決型にはなっているのですけれども、子どもたちの実態に合っているという意味では、開隆堂出版がいいのではないかなと思いました。

ほかに発言ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

なければ、各委員とも開隆堂出版というご意見だったと思いますけれども、図画工作については開隆堂出版でよろしいでしょうか。

それでは、ここでお諮りをいたします。

ただいまの協議の結果、図画工作については開隆堂出版を採択候補とすることでご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

入野教育長

ご異議ございませんので、図画工作については開隆堂出版を採択候補とすることに決定いたしました。

次に、家庭について協議を行います。

各委員から順にご意見を伺いたいと思います。

伊藤委員、お願いいたします。

伊藤委員

家庭科につきましては非常に迷いました。両方とも本当に甲乙がつけがたくて、とても魅力的な教科書になっていました。家庭科というのは調理ですとか、あと、住居ですとか、家庭経済、あるいは、子育て等々、家族に関する事など大変幅広い領域を網羅しているのですけれども、いずれの教科書もそういったことが自然にわかりやすく組み立てられているなと思いました。本当に甲乙がつけがたく、東京書籍のほうは、様々な資料的なページも面白く、また、わかりやすくつくられていますし、どんなふうに家庭科というのを学んでいくのかということ、あるいは、調理実習等につきましても注意事項など学び方についてすごく丁寧に書かれていると思いました。

それに対して、開隆堂出版のほうは紙面がわかりやすいということと、あと、両方ともわかりやすいのですけれども、コンパクトに起承転結がわかりやすいということで、開隆堂出版はすごく見やすいなと思いました。また、開隆堂出版はやや伝統的というか、従来のオーソドックスな家庭科という在り方を踏まえていて、一つ一つの単元がやや独立的に扱われているというところがあってやや残念なのですけれども、子どもたちにとっては小学校という発達の段階を考えますと、そういったやや独立的なものも、一つ一つの単元が見たときにとてもわかりやすい、視認性も高くて、例えば、ミシンの使い方などについても、どこの部分のことをどんなふうに言われているのかがさっと全体を掴みやすいというのでしょうか、全体をつかんで理解するというときに、情報が絞り込まれてコンパクトにまとまっているという点でわかりやすいなと思いました。

今申し上げたように一つ一つがやや独立的だということろは残念な点でもあるのですけれども、でも、一つ一つのところでこういうことを学んだのだなと主体的に整理できるということで考えますと、開隆堂出版のほうが本当に僅かの差ですけれども、適しているのかなと感じました。

以上です。

村杉委員

家庭科の授業を通じて、子どもたちが家庭生活を大切にして、家族の一員として生活をよりよく工夫して実践に役立てるような、そのような視点で比較させていただきました。私も両社ともに大変迷いました。

東京書籍は、デジタルコンテンツが多く、実践で活用できる動画が多い点は優れていると思いました。

開隆堂出版は、写真が大きめで色調も美しく、子どもたちが大変見やすいのではないかと思います。また、日本の食事のよさや各地の食文化も丁寧に記載され、日本の伝統的な生活に関わる内容も充実していました。また、料理例など、子どもたちが家庭に帰って作ってみたいと実践できるものも多いのではないかなという点で優れていると思います。

このような点から開隆堂出版がよいのではないかと考えました。

以上です。

岡本委員

2社ともとても充実した教科書だと思いました。日常の生活を子どもたちが自分ごととして捉えることができるような、また、振り返ることができるような教科書という観点か

ら検討いたしました。

東京書籍のほうは、教材ごとに「考えよう」「話し合おう」「やってみよう」「調べよう」「深めよう」という5段階があつて丁寧だと思う一方で、少し段階が細かく分かれているのかなという気もいたしました。学習ごとにめあてと振り返りが明示されているので、子どもにとってはその授業全体の目標はわかりやすくなるのかなと感じました。また、用具の説明も丁寧になされていると思いました。

開隆堂出版のほうは単元の初めに、例えば、なぜ調理をするのだろう、なぜ針と糸で縫うのだろうと問いから始まっているのが面白いなと思いました。なぜ調理をするのかなんて当たり前とっていて、あまり顧みないところだと思うのですが、生活は多分そういうところに大事なことがあつて、日常の活動を子どもたちが改めて振り返ることができるのかなと思いました。「気づく」「見つける」と、「わかる」「できる」、「生かす」「深める」という3ステップもわかりやすいのではと考えました。あと、ページ数がちょっと多いのですけれども、その分ゆったりつくられていて、読みやすいと感じました。

全体を通しまして、問いから始まっている、そして子どもがより自分ごととして考えられるのではという観点から、開隆堂出版の教科書がよいと思います。

以上です。

平本委員

家庭科については、自分たちの生活をよりよくすることを主体的に考えて、かつ、子どもたちが学んだことを実生活に生かしていく上での工夫がなされているかという観点から見させていただきました。

まず、両社ともにプロフェッショナルの方のキャリアインタビューを多数掲載しておりまして、家庭科で学んだことを生活やその先へつなげていくという過程が大変イメージしやすいものになっておりまして、優れているなと感じました。

東京書籍については、工程や用具に関する説明や理由が開隆堂出版よりも比較的詳しく書かれている点が特徴であると思ひまして、なぜこの工程が必要なのかなど理由の部分、子どもたちが教科書を読んで、しっかり理解する上では非常に役に立つ内容になっているように思います。また、動画も詳しい内容でしたので、家庭科があまり得意ではない教員の先生のほうでも教えやすい教科書になっているのかなと思いました。

他方で、開隆堂出版は比較的シンプルな表現で簡潔に書かれている点が、やはり子どもたちにとってわかりやすいものになっていると思います。先ほど少し話題に出ましたが、

工程の説明を詳細に示す前に、なぜこうするのだろうなどと問いかけを多用して下さっておりますので、あえて説明を詳細に書きすぎないことで、主体的な学びを進めやすい構成にもなっているのではないかなと思います。また、説明が詳細に書かれていない分、写真が大きくて手元などが見やすくなっている点もよかったです。学び方についても「気づく」「見つける」、「わかる」「できる」、「生かす」「深める」という三つのステップが子どもたちにとってもわかりやすいものになっておりましたし、実習に役立つワンポイントが後ろにとじ込みでついている点も、適宜振り返って活用する上では、使い勝手がよいのではないかと感じました。

両社ともに包丁の使い方や手縫いの場面などで、右利き、左利き両方についての丁寧な配慮がありまして、資料もどちらもわかりやすかったので、私も大変迷ったのですけれども、子どもたちにとっての学びやすさ、わかりやすさ、使いやすさという観点で開隆堂出版がよいのではないかと思いました。

入野教育長

最後に私の意見を申し上げます。

私自身も非常に両社甲乙つけがたいなと思いました。例えば、主体的な学びの力ということでは、東京書籍も開隆堂出版もガイダンスも含めて問題解決型になっていて、さらに振り返りもあるということで、子どもたちの主体的に学んでいく力を生かせる、5、6年生ですので、構成になっているのかなと思いますし、対話的だったり、学び合いということについても、両社とも題材ごとに話し合おうとか、やってみようとか、調べようという学習活動を提示しているところがいいなと思いました。

タブレット端末の活用についても、両社とも2次元コードが充実しています。ただ、どちらかというところ、開隆堂出版は丁寧に動画がまとめられているのに対して、東京書籍はコンパクトであるということで、ここは専科の先生が少なくなっている中野としては、どちらがいいかなというのは迷うところでした。丁寧なほうがいいのかなという気もしております。

東京書籍の「生活の中のプログラミング」のページが、そういう意味ではひとついいかなと思いましたし、併せて感染症予防の中で「自分自身や大切な人を守るための予防について」も掲載されていて、チェックリストがあること自体もなかなかいいかなと思いました。

もう一つは、比べてみた中で、「生活の課題と実践」というところがあって、ここの表記がある意味対照的かなと思いました。東京書籍のほうは「生活を変えるチャンス」というこ

とで、その中にどんな作戦を入れていくかという書き方なのですが、開隆堂出版は「家族とクリーン大作戦」というように、見出し自体が取組のネーミングになってきているという部分が特徴的かなと思いました。自分の生活を変えるということの意味から言うと、東京書籍の表現もいいかなと思うところです。

学習の中で大きなポイントになる持続可能な社会づくりの扱いということについては、開隆堂出版はやはり丁寧かなと思いました。コラムですとか、環境マークですとか、そういうものが東京書籍より多いような気がいたしました。同じような利点があるし、両方ともそれぞれ特徴的な展開になっているのですけれども、一步、開隆堂出版のほうがいいかなという感じを持っております。

各委員から発言はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

そうしますと、各委員とも開隆堂出版というご意見でしたので、家庭については開隆堂出版でよろしいでしょうか。

それでは、ここでお諮りいたします。

ただいまの協議の結果、家庭については、開隆堂出版を採択候補とすることでご異議ございませんでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

入野教育長

ご異議ございませんので、家庭については開隆堂出版を採択候補とすることに決定いたしました。

それでは、本日の協議はこれまでにしたいと思います。

次回、7月25日には生活から協議を行います。

以上で、本日の日程は全て終了いたしました。

これをもちまして教育委員会第6回臨時会を閉じます。ありがとうございました。

午後9時15分閉会